

講演会「中性子散乱と熱測定」の開催

中性子散乱によって得られるさまざまな情報は、ものの熱力学的性質を理解するうえで極めて重要であり、逆に、高精度で行われた熱測定は中性子散乱の結果を解釈するうえで不可欠となりつつある。このように本来、補完的な関係にあるはずの両手法をより緊密なものにする目的で本講演会を企画し、日本熱測定学会の主催、日本化学会および日本結晶学会の協賛を得て、10月17日(月)、午前中はE210講義室、午後は塩見記念室に場所を移して開催された。講演者と講演題目は以下の通りであった。

1) Dr. C. J. Carlile (ISIS, RAL, U. K.)

“ISIS, IRIS and the Tunnelling of NH_3 in Caesium Intercalated Graphite”

2) Dr. F. Fillaux (LASIR, CNRS, France)

“A New Look at Proton Dynamics in Solids with Neutrons”

3) Dr. H. Büttner (ILL, Grenoble, France)

“ILL and the Instrumentation”

4) Dr. G. J. Kearley (ILL, Grenoble, France)

“Vibrational Spectroscopy with Neutrons”

5) Prof. J. Meinnel (Univ. of Rennes, France)

“Methyl Tunnelling in di- and tri-Halogeno-mesitylenes”

6) 稲葉 章 (阪大理)

“Neutron Scattering and Calorimetry of Dilute System”

7) 松尾隆祐 (阪大理)

“Deuterium-Induced Phase Transitions in Molecular Crystals”

講師はいずれも、10月11日(火)より4日間、仙台国際センターで開催された I C N S '94 (中性子散乱国際会議) に出席した方々であった。当日は、午前10時から午後7時に及ぶ強行スケジュールにも拘わらず、学外からの参加者を含め約50名の参加があり、活発な議論が交わされた。学際研究の重要さが叫ばれる昨今、熱測定以外の手法を用いている研究者との情報交換が極めて重要で、意義深いものであることを改めて認識させられた一日であった。

(稲葉 章 記)